かけらを編む

古家具のコンバージョンによる過去を継ぐ方法の検討

津村研究室
212008
大河内詩歩

研究目的

DIYレベルでの箪笥コンバージョンの実践により、古家具を引き継ぐハードルを下げ、それらが内包する暮らしの歴史性の消失を軽減する。

研究動機

きっかけは春先に祖母が家の整理を始めたことだった。思い出の品々を捨てるのを惜しみ、私や家族に使うものがないか何度か尋ねてきたが、私は日常使いできないものは引き取ることを躊躇ってしまった。引取り手が見つからないものは、処分されてしまう。売っても大した金額にならず、それどころか大きな家具は粗大ごみとして捨てることになる。お金を支払って長年の思い出ごと捨てることは、私には不憫なことに思えた。

私は祖母の提案を断ってしまった理由を自問し、「元の用途のまま使うことを前提に自身の生活に落とし込んでいる」ことに気づいた。そこで、用途の幅を広げることができれば、祖母が持っていたような「捨てたくない」気持ちを掬い取ることができるのではないかと考えた。

箪笥の歴史

起源は中国で、朝鮮半島を経由して佐渡島に伝来し、新潟を通ってその技術や装飾が全国各地へと広まっていった。箪笥の歴史の黎明と言える江戸時代中期の佐渡箪笥が、朝鮮・李朝の箪笥と瓜二つであることが、この伝来を裏付けていると言えるだろう。

また、箪笥は、江戸後期、明治、大正、昭和初期から三〇年代まで、それぞれの時代によってその味や質感は異なる。

（山本明弘『和家具をたのしむ』より引用）

箪笥の特徴

箪笥の個性は、それぞれの地方文化を継承する流れの中で多様化していった。例えば、寒い地方の箪笥は欅材を用いた漆塗りの頑丈なつくりが多く、鉄金具も重厚な質・デザインのものが主流である。その一方、暖かい地方の箪笥は白くて軽い桐材の薄板を使用した瀟洒なものが多い。木材には、欅や桐の他にも杉、栗、檜などがよく使われている。

また、箪笥の良し悪しの七割は木の仕事で決まると言われているが、引手、錠前、蝶番などの装飾金具も重要となってくる。装飾金具は時代、地方によっても変わるが、慶事を表す「松竹梅」、健康長寿を願う「鶴亀」など、注文主が込めた思いを察することもできる。箪笥錠前は、明治のものは凝ったものが多く、大正、昭和になるにつれてシンプルになる。

（山本明弘『和家具をたのしむ』より引用）

蝶番

錠前

引手

和箪笥の再生

今回和箪笥のコンバージョンを行うにあたり、参考事例として長岡市栃尾地域で箪笥の再生を行っている藤井朋子さんにお話を伺った。

Q．どういった経緯で箪笥の再生を？

A．大学を卒業してものづくりの仕事がしたかったんだけれど、未経験者を採用しているところが殆ど無かったから、色んなアルバイトをして少しずつ経験を積んでいったわ。そのうち作るよりも直す仕事がしたいと思うようになって、三三歳の頃から加茂の桐箪笥工房で三年修行して、独立を機に栃尾に帰ってきたの。

Q．栃尾に戻ってきてからは？

A．機織り工場をリフォームした工房兼住宅で、使い古された桐箪笥や長年使い込まれた道具たちを修理・再生して、またお客様の生活の中に戻す「直し屋さん」をしているわ。工房で修行していた時と違って私一人だから、実際にお家にお邪魔してお客さんの話を聞いて、その人の要望や好みに沿うように仕上げるの。そこが醍醐味ね。

藤井朋子さん（六〇）

一九六四年栃尾生まれ。東京女子短期大学に進学し、卒業後はものづくりや掃除関連の様々なアルバイトを経験。三三歳から加茂の桐箪笥工房『桐の蔵』にて修行し、三六歳で独立。二〇〇一年九月に『再生工房　古箪（コタン）』を立ち上げ、使い古された桐箪笥や古道具などを修理・再生している。

制作条件

- 研究目的が「古家具を引き継ぐハードルを下げること」であることから、以下の通りDIYで使用するような一般的な工具のみを使用して制作することとした。

・カッター　・手ノコ　・クランプ

- 電動工具については、ホームセンター（コメリもしくはカインズ）にてレンタルサービスを行っている以下のものを使用した。

・丸ノコ　・インパクトドライバー

- 使用する金具もホームセンターで購入できる範囲の一般的なものに限った。

A

リサーチ

元の持ち主である田中和代さん（七四）にお話を伺った。

Q．箪笥を購入した経緯は？

A．私が結婚したとき（五三年前）に私の両親が加茂で買ってきたものなの。でも最初は私の好みじゃなかったから嬉しくなかったわ。当時は二〇歳で若かったからもっと若々しいものが良かったのよね。部屋が狭かったから他に自分好みの家具を置けなかったのだけど、親が買ってくれたものだから断るわけにもいかなくて。結局六〜七回引っ越したけどその度に持って行って、最近まで使っていたわ。

Q．元々処分を考えたりされていましたか？

A．考えてはいたのだけど、手を付けられないでいたの。私が亡くなった後に私の物を娘に処分してもらうのは大変でしょ。私も自分の親の時に大変だったから。でもね、自分が買ったものだと不要になれば捨てられるんだけど、大切な人からもらったものは「その人との思い出」があるからなかなか捨てられないものよね。

制作

元の持ち主の孫である私の友人は、長岡造形大学 造形学部 美術・工芸学科の絵画専攻で、主に油絵を描いている。卒業後は新潟市の実家に戻り趣味で油絵を描くということだったので、主に彼女が絵を描く際に必要なものを取り入れた用途に変更することにした。

〈取り入れた用途〉
- イーゼル
- 箱イス
- 画集収納
- 作業時のテーブル
- 画材道具収納

B

リサーチ

元の持ち主である鳥越眞知子さん（七五）、知行さん（四八）親子にお話を伺った。

Q．箪笥を購入した経緯は？

A．三年前に亡くなった夫の趣味が骨董品収集で、そのコレクションの内の一つなの。この箪笥は小物の骨董品収納に使っていたみたい。

Q．元々処分を考えたりされていましたか？

A．そうね。私も七五歳だから先のことを考えて処分していかなきゃ、とは思っていたわね。親族の家にも置き場所はないから、私が処分しないと子どもたちにやらせることになっちゃうの。でも大した思い入れはないとはいえ、夫のものだから腰が重くなっちゃうのよね。

制作

元の持ち主へのリサーチから引取り手がいないことが分かったので、私自身で引き取ることにした。私は来春から都内の狭小賃貸で生活するため、以下の条件で制作することとした。

①必要な家具が省スペースで完結する。

②引っ越しの際に荷台に乗せたときに省スペースで済むように、元の大きさに収まる。

自分にとって必要な家具を抽出し、それらの用途を付加することとした。

〈取り入れた用途〉
- デスク
- スツール
- テレビボード
- 姿見

考察

制作を振り返ると、どう手を加えるか考えているときから楽しく、加工も自分の好きなように進められ、多少失敗したときでもカバーする事に対してやりがいを感じることができた。仕事でないからこその緩さ、自由さというのはものづくりが好きな人にとっては魅力的ではないだろうか。

また、今回はどちらの箪笥も大掛かりな加工をしたが、段階を経るにつれて作業速度も上がり、自身の成長を実感することができた。本来の目的とは異なるが、成長機会に繋がるという価値も見出すことができた。

本研究の目的は「DIYレベルでの箪笥コンバージョンの実践により、古家具を引き継ぐハードルを下げ、それらが内包する暮らしの歴史性の消失を軽減する。」であったが、DIYでの箪笥コンバージョンが実践できたことから「サイズに対する用途の幅を拡げる」ことが可能であり、ある意味では引き継ぐハードルが下がったと言えるのではないだろうか。

今後の展望

本研究におけるリサーチの段階で、箪笥を通して相手について深堀りする機会ができたことが特に良い効果だと感じた。日常生活の中で、家族であっても互いにとって直接関連のない過去の話をする機会は少ないのではないだろうか。「自ら手を加える」という、潜在的な緊張感のようなものにより機会創出に繋がるように感じる。また、元の持ち主側の立場から見ても「過去の暮らしを懐古する」という、意識的に行わなければ得られない機会を自然と獲得できるのは良い効果と言える。「暮らしを振り返る」という機会の重要性というのを今後はより明確化していきたい。

本研究では経過を観察するほどの時間は取れなかったため、今後も使用しながら観察していきたい。